

2019年度一般入学試験(TEAP利用型) 記述式問題 解答

科目:2月3日 TEAP政治・経済

1				
設問 1	【解答例】核兵器によって保たれていた勢力均衡が崩れる結果、抑止力が失われて、通常兵器による戦争が増加する。			
	【解答例】核兵器がない中での安全保障体制は同盟を基調とせざるをえないため、一つの戦争が世界大戦へと発展する。			
設問 2	【解答例①】 たしかに、国際的には集団的自衛権の行使容認がスタンダードである以上、国際的に協調するためには日本もスタンスを変えていく必要があるのかもしれない。しかし、国際的に協調することは、必ずしも他国と同様に振舞うことと同義ではない。特に集団的自衛権でいうところの自衛の意義が有名無実化している現状を踏まえるなら、あえてそれに加わらないという選択は、より深いところで国際協調の趣旨を実現していると見ることも可能である。実際、国連憲章も本来は国連軍による紛争解決を建前としていたが、冷戦によって安全保障理事会が機能不全に陥った結果、それが機能しなかった現実があることを踏まえれば、日本の憲法9条は元々の国連の趣旨に立ち返るものともいえる。			
	【解答例②】 たしかに、平和主義を掲げて世界を先導しようとする心意気は素晴らしいかもしれない。しかし、現実の政治は、単純な平和主義で括ることのできるほど、単純ではない。現に近隣諸国でも問題が頻発している以上、無批判に平和主義を叫ぶだけでは、国際的に孤立し、かえって国際社会からの信用を失くすことにつながる。たしかに、現行の集団的自衛権の在り方に問題があることは認めるが、大切なのはこれを一切否定することではなく、適切にこれを行使することである。集団的自衛権を認めればアメリカの言いなりになるとの非難もあるが、むしろしっかりと戦力を蓄えることがアメリカとの非対称な安全保障関係を解消することにもつながる。			
2				
設問3	(a)	ロック	(b)	モンテスキュー
設問 4	【解答例】 法案審議が与党において事前決着しているということは、議院と内閣という二つの政治的アクターが権力行使の主体として除外されていることを意味し、よって権力の分散と権力間の抑制と均衡が働かなくなるため。			
設問 5	【解答例①】 たしかに官僚は優秀な人材から成り、選挙がない分だけ政策立案に没頭することができる。国民からの信頼も政治家に比べて、特に低いというわけではない。しかし、官僚はあくまで行政官であり選挙を通じて選ばれていないため、民主的な正当性を有しない点に問題がある。もちろん、日本の戦後政治の発展の原動力に官僚があったことは否定し難いが、官僚は国民に対して直接の政治責任を負わないため、いざというとき政治家は官僚叩きをすることで自らの責任を曖昧にするおそれがある。そこはやはり国民に政治責任を負う政治家が主導で政治を行うことで、政治の失敗は政治家がとるという根本原則に立ち戻る必要があると考える。			
	【解答例②】 たしかに、官僚は国民の選挙によって選ばれたわけではないため、政治責任を問うことができず、政治を主導する立場にいないというのは理解できる。しかし、現実問題として議会政治が機能不全に陥る中、官僚が実質的な政治アクターとして機能する方が望ましいことは疑いない。官僚政治には戦前から連なる日本政治の伝統といえる側面があり、実際日本の戦後の高度経済成長は官僚政治を抜きにしては実現しえなかったといえる。理想論を振りかざして議会政治へと立ち戻れというのは、結局、官僚叩きを誘発することになって、官僚に優秀な人材が集まってこなくなるおそれがある。議会政治はあくまで建前にとどめて、現実を見据える必要がある。			

2019年度一般入学試験(TEAP利用型) 記述式問題 解答

科目:2月3日 TEAP政治・経済

3					
設問 7	家事労働や余暇時間を正の要因、環境破壊や都市化による損失を負の要因としてGDPに加算した指標				
設問 8	<p>【解答例】 GDPの前身となるGNPIは第2次世界大戦の戦費調達のため、財政負担がどれだけ可能かを定量的に計るために作成が開始された。客観的な指標が国民国家の説明責任のために必要であった。一方、人間の豊かさは特定の時空間における人間の主観を反映する。人々が豊かさを感じながらも経済成長へ忌避感を示すことがあるように、人間の主観的指標である幸福度と国民国家の客観的指標であるGDPとは相容れない関係にある。</p>				
設問 9	所得が低く、資産が乏しければ生活保護制度による扶助が受けられるから、強制的な年金制度がなければ、現役時代に貯蓄を抑制し、老後はその扶助に頼る行動が誘発される。				
設問10	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">A</td> <td style="width: 35%;">積立</td> <td style="width: 15%;">B</td> <td style="width: 35%;">賦課</td> </tr> </table>	A	積立	B	賦課
A	積立	B	賦課		
設問 11	<p>【解答例】 B方式では、現役世代の年金保険料を上げれば、そのときの老年世代が受け取る年金額の増額に使うことができる。一方、A方式で年金保険料を上げても、それは支払った世代の老後の年金給付に使われ、そのときの老年世代の年金の増額に使うことができないから。</p>				
設問 12	<p>A方式: $20N_2Y_2 \leq 40N_2X_2$、これより、$Y_2 \leq 2X_2$。つまり、年金受取額の上限は$2X_2$(円)である。 B方式: $20N_2Y_2 \leq 40N_3X_3$、これより、$Y_2 \leq 2N_3X_3/N_2$。つまり、年金受取額の上限は$2N_3X_3/N_2$(円)である。</p>				
設問 13	25%増し				